

(平成 26 年 12 月 10 日 午後 2 時 15 分 再開)

●議長 (小林幸雄) 休憩前に引き続き会議を開きます。

通告の 11 湊喜一議員。

1. 新町長の施政方針と行政の継続について
2. 消防団員の人員確保について
3. 地域おこし協力隊の勧誘について

議席番号 11 番・湊喜一議員。

◆11 番 (湊 喜一) 議席番号 11 番・湊喜一です。

質問に先立ち、神城断層地震により被害を受けた白馬村、小谷村、大町市、長野市、小川村、そして信濃町の皆さんに、この場を借りて心よりお見舞い申し上げます。この被害に関して 11 月 27 日、公明党長野県本部を代表して、長野市議 2 名、大町市議 1 名と、この私、湊が、総理官邸において、菅官房長官に直接、被害対策の要望書を手渡し、格段の配慮をお願いしてまいりました。まだ結果は聞いておりませんが、激甚災害の指定に準じた扱いがなされればいいなと思っております。他の市町村に比べて信濃町の被害は少ないので、欲をかくと失敗しますので、ほどほどにとも思っております。

また、話は変わりますが、横川町長、就任おめでとうございます。長年培った行政手腕に期待を申し上げます。

それでは、通告に従い質問をさせていただきます。最初に、前・松木町政の総括と、行政の継続についてお聞きします。前・松木町政は、私、湊の提言・提案をかなり取り入れ、町政、福祉の増進を図っていただいた部分は評価いたしますが、8 年間、野に降りた町民目線の、横川新町長の町民目線の総括の上で、新町長の今後の施政方針をお聞かせください。

●議長 (小林幸雄) 横川町長

■町長 (横川正知) 湊議員さんのご質問にお答えを申し上げます。前町長さんの総括ということをおっしゃいましたが、私自身は、前町長のやってきたことに対して、総括する立場ではございません。ただ、この 8 年間、やはり大変な「長」という立場の中で大変なご苦労をされて、町政発展のためにご努力をされてきたということに対しましては、心から敬意を表したいと、こういう思いでございます。そしてまた、今、湊議員さんから、当時といいますか、大変いろいろな提案をされて、受け入れてきたという前町政に対しての、一つの総括的な、評価的なことがございました。私自身、この町民目線で、町民益にかなう、そういう時にやっぱり現状、一つの「行財政」ですから、財政という部分もしっかりと勘案しながら、その町民目線で受け入れることに対して、実行すべきものは実行していく、そういうスタンスで進めていきたいというふうに思っております。以上でございます。

●議長 (小林幸雄) 湊議員。

◆11 番 (湊 喜一) 初日、開会のあいさつで述べられておりましたが、行政の継続についてお聞きします。大きく転換することはないと思いますが、同僚議員たちがあらかたのことは聞いておりますので、聞かなかったこと数点に関して、具体的に今後の方針をお聞きしたいと思います。特に湊個人が、個人として協力している町の事業についてであります。一つ目として、「東京音楽大学との癒しの森提携事業」の数々がありますが、今後、そういう事業をどういうふうにされていくのか、お聞きしたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 湊議員さんも、議員さんのお立場、あるいは私人たるお立場としてもいろいろな面で携わってこられ、協力をいただいているということは、私自身も承知はしております。そういう意味で、今、個別の事案として言われました「癒しの森事業」等々の問題がございます。基本的には、継続の姿勢を持ちながら、これから新年度予算のヒヤリング等も入ってまいります。その中で、十分また、検討させていただきたいというふうに思います。

●議長 (小林幸雄) 湊議員。

◆11 番 (湊 喜一) 非常に一つ一つ聞いていくと大変な部分があるんですけども、三点だけお聞きしたいと思います。

まず、今の一点目です。

それと、一昨年から始まりました「一茶生誕 250 周年の記念事業」から派生しました「一茶夏まつり」。この祭は継続されるおつもりでしょうか。また、継続されるのなら、前 2 回は補正予算で組んでいる、なかなか準備が間に合わない部分がありました。もし継続されるなら、当初予算で組むべきだと思いますが、いかがでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 250 周年の時の、先ほどともちょっと関連があるんですが、250 周年という大きな節目の中で、町民が皆でそのことを盛り上げようと、こういう行動に対しまして、その前の年にやられたと。このことは大変なご努力の中で、町民の皆さん方合意の中で進められたかなと思うんです。で、私はその翌年、つまり今年ですか、それに引き続いて「一茶夏まつり」というふうに、「一茶」という言葉を入れて夏まつりをやる、私はこれはちょっと、私、個人的には如何なものかなというふうに、実は思っています、同時に、この祭を進めるというのは、先ほどともちょっと申し上げ

げたんですが、このことが行政主導であったかどうかはともかくとして、もう少し、いろいろな角度のご意見もお聞きしながら、進めなければいけないんじゃないかなど。

湊議員さんから、補正予算でやるのか、当初予算でやるのかと、こういうご質問もあるわけですが、私自身は、もし、いろいろな計画の中で、この物事を進めるといった時に、やはり計画性に基づいて、そして、当初予算なりでそのことを計上しながら進めていくというのは基本的なあり方だろうというふうに思う。補正予算というのは、ある面では、突発的な緊急的なことを含めての予算対応だというふうに思っておりますので、そんなことですね。いずれにしても、「一茶夏まつり」、どうなのでしょう。「夏まつり」252 周年だか何かになるんですか。私は、こういう計画を進める予定はありません。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

◆11 番（湊 喜一） お聞きいたしました。非常に「一茶夏まつり」、私も関係しておりますので、今後の動向、非常に気になるところであります。これ、民間が主導でやっていくとなれば、行政は応援はしていただけるものと考えておりますが、その辺は、その時には一つよろしく願いいたします。

あともう一点、新町長も猟友会の初猟会に参加されていましたが、その場でもありましたけれども、猟友会は、肉の加工所を非常に要望されておりました。前・松木町長も、その加工所を猟友会にお約束していた経緯もあります。そういう場合は如何でしょうか、されるのかどうか。また、その害畜なんですけれども、害畜はしっかり食べて、美味しくいただいて、その害畜を有効利用するという部分があると思えます。その「ジビエ」は、今、世間でかなり評価を受けております。「ジビエ」としてのその販売計画というか、そういうところまで踏み込んで、そういう加工所を作るべきだと私は思っておるんですけども、町長のお考え、所感をお聞きいたします。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 今ご指摘の猟友会の皆さん方、大変ご苦勞をさせていただいて、今年もクマにすれば 28 頭捕獲、18 頭云々という、こういう経過が、担当課長の方からも先ほど話があったわけでありまして。そういうふうに、大変なご苦勞をいただいているということは、私も重々承知しておりますし、そしてまた、その「ジビエ料理」にもつながりたい、そういう思いで加工所的なものを望んでおられるということも、その時に猟友会の会長さんからも直接、お聞きしたわけでございます。いろいろな制度資金等々も踏まえて、適当な国・県の補助も含めて、そういうものがあるかどうか、そしてまた、それが「ジビエ料理」として提供できるような段階に、果たして、成長、という言い方はおかしいんですが、発展出来るのかということも含めて、ただ、問題は加工所だけでも必要なのかなという、その 28 頭も入ってくると、どういうふうになるのかなど、その辺も含めて、慎重にまた、検討をしていきたいというふうに

思っております。

●議長 (小林幸雄) 湊議員。

◆11 番 (湊 喜一) クマが 18 頭補殺されて、その、肉にするとかなりの重量になると。加工所はそれなりの保存の設備が必要になってくると思いますので、その辺のところはまだ、それなりの大きさが必要になるようには思っております。

今日はなるべく早く終わりたいと思っておりますので、手短に進めたいと思います。

次の質問に移ります。地域防災に非常に重要な役割を果たしている消防団、先ほども同僚議員から、数々の消防団に関する質問がありましたけれども、消防団の団員減少で、消防団活動が難しくなっている、その部分がかかなりあります。東日本大震災の教訓も踏まえて、昨年 12 月に消防団を中核とした「地域防災力の充実強化に関する法律」が国会を通過して、国は一層の人材確保策を進めているところであります。

公務員や大学生、一般企業の人、そして女性も、地域防災力の担い手として参画しやすい環境を整備することで、消防団の確保を促そうと、独自の支援策に取り組む自治体も増えてきております。

2・3、取り組んでいる自治体を紹介させていただきますと、愛媛県の松山市では、1 人の団員が消防活動の全てに対応するには大きな負担があるため、平成 17 年から、出来る範囲の活動をする「機能別消防団」という考えを導入いたしました。現在は 4 つの機能別消防団があり、その一つに「郵便消防団」、郵便ですね、郵便局が消防団を結成している。「郵便消防団」は郵便局員で構成され、配達等で地域の情報に詳しいことから、被災状況の情報収集や避難などの広報活動を担当していると。その他、「大学生消防団」、「事業別消防団」、「島しょ部女性消防団」が、それぞれの立場に応じた活動に励んでいます。これらの取組みで、平成 17 年には 2147 名だった団員数が、平成 26 年 10 月現在では 2423 人と、300 人近く増加しているという事例があります。あと、千葉県の君津市、市内初となる女性消防団を編成し、本年 4 月 12 日に発足式を開催、13 名の団員は 24 歳から 54 歳の市内在住者と通勤者で、主婦も含まれていると。

信濃町では女性の消防団員が活躍されていて、大いに評価をさせていただきますが、男性に交じって活動されております。女性のみで構成される分団を創設すれば、更に参加する女性団員が増えるのではないかと考えますが、町長の見解をお聞きいたします。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 消防団員につきましては、本当に日頃、自分のお仕事を持ちながら、大変奉仕的などいいますか、活動にあたっていただいておりますことに対しまして、まずもって、関係の皆さんに感謝を申し上げさせていただきたいというふうに思います。

そして今、ご指摘の消防団員、女性消防団員の課題でございます。この女性消防団

員というのは、信濃町では今、消防団員数が、私もちよっと聞きますと 392 名、団員数があるそうでして、その内 15 名が女性消防団員として、それぞれの地域分団の中で、一緒になって活動していただいているということでございます。で、今ご指摘のように、ある面では役割分担と言いますか、違うような部分も出てくるのかなというふうに思うわけでありまして。おっしゃられたような女性団員としての、いわゆる団員活動としての適性というか、そういう女性なるが故のやっぱり、活動というのはあるというふうに思うんですね。ですから、その辺については、今、私も担当課の方からは、消防団の分団長会議等でも今、話題にさせていただいて、そういう方向になるかどうかはともかくとして、検討は始めさせていただいているところでございますので、予防消防と言いますか、そういうことも含めた場合に、特にこの女性消防団員の活躍というのは期待できる分野の一つだろうと思っておりますので、そんなことも含めて協議を継続して、合意できれば、そういう方向性で進んでいただくのが一番いいのかなというふうに思っております。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

◆11 番（湊 喜一） もう一点、この団員の確保に関して、長野県では「消防活動に協力している事業所等の事業税を減税します」というのはご存じだと思うんですけども、私、これを調べだしてようやくこれに気がついて、今まで知らなかったと。中小法人であろうが、個人事業主であろうが、事業税の 2 分の 1 を減税すると。10 万円を限度と、上限はありますけれども。こういうことが知られていない部分があるんじゃないかな。これはしっかり広報活動をすべきではないかと。大きな事業所であろうが小さな事業所であろうが、事業税が減税されるわけですから、消防団員を出して、その消防団が消防活動に従事する、それを優先するような事業所には、こういうメリットがあるということ、是非とも告知をお願いしたいんですが、如何でしょうか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 私の認識の中では、今、湊議員さんが言われた、ある自治体では、その自治体内に住むといいますか、事業所のあるその事業主に対して、市町村民税ですかね、何かそういう税制優遇をしているというような状況は聞いたことがあるんですが、今おっしゃられた、県がそういうふうに、というのは、今、実は私自身は初めて伺っているところであります。それはもし、そういう制度があるんだとすれば、これは事業主さんにも大変申し訳ないことであり、知らせていなかったとすれば、そのことは反省しながら、早急に調べて対応したいというふうに思います。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

◆11 番（湊 喜一） これ、担当課の課長にも一度聞いたほうが良いと思いますので、

これご存じでしたか。

●議長（小林幸雄） 北村総務課長。

■総務課長（北村政光） 私の記憶は定かでないので、多分初めて聞いたんだろうというふうに思います。すみません。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

◆11 番（湊 喜一） 皆さん初めてでしたか。私も、こんなのあるんだ、と。長野県のホームページから、これ引っ張り出したわけですが、間違いなく長野県のホームページからです。後で、このプリントをお渡しいたしますが、窓口は地方事務所になっておりますので、間違いなく、長野県の。ただ、いろいろな要件があると思いますので、どこからどこまでかは詳しく私も調べていないのですが、ただ対象事業年度というのは、平成 27 年 3 月 31 日までになっております。これが利用されて、消防団員が増える実効力があるのなら、多分長野県も継続していくと思いますので、ぜひともこの辺をしっかりと告知して、広く、町の事業者に「消防団員の確保に協力いただきたい」と、「こういうメリットがあります」、ということを告知宣伝をお願いしたいと思います。こういうことは宣伝できるものかどうかは、ちょっと総務課長にもお聞きしたいと思います。

●議長（小林幸雄） 北村総務課長。

■総務課長（北村政光） 広報、あるいはホームページ等でも、それは可能であろうというふうに思います。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

◆11 番（湊 喜一） このオフトークを聞いておられる方も、事業主として、おられるかも分かりません。個人事業主であっても、この減税の対象になるということ、この場をお借りしまして、告知させていただきたいと思います。あと、対象になるかどうかはご自分で調べていただく必要はあると思いますけれども。是非とも消防団員を 1 人でも多く確保するために、ご協力をお願いして、次の質問に移りたいと思います。

9 月の議会でも同僚議員が採り上げ、今議会でも採り上げておられる「地域おこし協力隊」であります。衆議院の総選挙の結果にもよりますけれども、政府が地方創生の中の柱の一つとして、「若者の地方定住化戦略の推進による地域雇用創出について」と題しまして、都市部の若者らを、過疎地の自治体が募集し地域活動に従事してもらう「地域おこし協力隊制度」が全国的に広がっております。制度が開始されたのは 2009 年でありまして、その 2009 年度は全国で 89 人でしたが、2013 年度現在では、

隊員数が 318 自治体で 978 名まで広がり、この 6 月には安倍総理が、この制度の隊員数を今後 3 年間で 3000 人に増やす方針を打ち出しています。この「地域おこし協力隊」の資料は、事前に町長の方にはお渡しさせていただいておりますので、多少は読んでいただいたと思いますが。この地域に暮らす人材を活用した地域活性化策として総務省が創設しました、この「地域おこし協力隊」は、地方自治体が地域活動の支援、また、農林漁業の応援、住民の生活支援など地域協力活動に従事してもらい、併せてその定住、定着を図りながら、地域の活性化に貢献するというものです。

いろいろ、総務省は実態調査をホームページにも載せておりますし、この「地域おこし協力隊」の定住状況等に係るアンケート結果というのを平成 25 年度にも出しております。非常に、この地域おこし協力隊の隊員として来た人が、その後に残る、協力隊員としての役目を終え、3 年なんですけれども、その 3 年後にも、その地域、もしくはその周辺地域に定住されているというのが、48 パーセントも残っているわけですね。

ですから、都会の若者を、この信濃町に呼ぶ一つの方法だと思います。ただ、今も信濃町は農業、農業という形ではありますが、この「地域おこし協力隊」は、何も農業、林業に限定はされておりません。起業、新しく生業を起こす起業であったり、就農であったり、それ以外の地域おこしの、伝統芸能の継承というような部分も、中にはあります。非常に多岐にわたってその地域を活性化する。それと、閉店した商店を引き継いで、そこで起業をし、カフェ経営をしたり、経営コンサルタントとか、整体師等の職業をそのまま続けてやっておられる、あとは医療関係、介護関係の仕事をそのまま続けておられると。

これは 9 月議会でも同僚議員が言っておりましたけれど、国の財政支援があると。1 人に対して 400 万。ただ、本人には報奨で 200 万円。年間ですね。で、その他の経費として、必要経費が 200 万円。で、1 人当たり 400 万円と。それと、募集に係る 1 団体当たり、自治体に 200 万円の補助が、これは特別交付税で来ます。これも定住を目標の一つの方法だと思いますので、是非ともこの事業に募集をかけていただきたいんですけれども。

一番近いところの、近いかどうか、ちょっと語弊があるかも分からないですけど、十日町市が、この「地域おこし協力隊設置の要綱」を作っております。で、その主旨は今述べたようなことなんですけれども、第 2 条に「協力隊の隊員の身分」というのを「非常勤の特別職」としている。で、その年限を、第 4 条に「隊員は最大 3 年まで再任することができる」と。第 6 条に、どういう仕事ができるのかという事まで、しっかり書いているんですけども、「農林水産業への従事活動」、それから 2 として「水源環境保全活動」、3 に「地域行事等の支援活動」、4 に「住民の生活支援活動」、5 に「都市との交流支援活動」、6 に「十日町市里山センターと連携した地域おこし支援活動」、7 に「その他市長が必要と認めた活動」、となっております。で、報酬はこの隊員に月額 16 万円となっております、細かいことはまだありますが、勤務時間というのかな、活動時間は 1 日で 7 時間を超えない範囲と。一応細かく規定された要綱が作られておらまして、しっかり、この辺のところ、地域協力隊を利用されておるとい現状があ

ります。

この辺のところ、しっかりとこういうのを入れて、人口増じゃないですけど、1 人でも都会から人を、この場合は I ターンになるんでしょうけれども、I ターンを目論む、しかも 3 年間ですけれども国の財政支援もあるということですので、是非ともこの事業を進めていただきたいと思うんですけども、町長の考えをお聞きます。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 今、ご質問にあります「地域おこし協力隊員」、これについては、今、制度の内容については、議員さんからお話しいただいたとおりかというふうに思います。

で、この「地域おこし協力隊」、現状のこの制度を活用するという意味においては、やっぱり、しっかりとした私ども受け入れる側の、あるいは地域も含めて、その目的をしっかりと持っていなければいけないだろうというふうに思います。そうしないと、この制度というのは、ちょっと生かせられないというような部分にもなってまいりますので、そのことが一つ、問題点と言いますか、受け入れる場合に当たっての問題点になってくるかなというふうに思っています。

確かに、特別地方交付税等々の国の財政支援もあるということは、私も承知はしているんですが、要はそのことが、本当にその思いとして、実行が、目的が達成されるようなことにならないと、結果的にむしろマイナス要素にもなってきかねないという部分もあるわけで、したがって、先ほど言いましたように、私ども町内においても、いろいろなその目的に従っての地域ニーズも含めて、検討しなければいけないというふうに思います。

そしてまた、たまたま私、12 月 8 日付なんですけど、ちょっと関連していろいろと調べさせていただいているところがありまして、その中で、もう一つ、今の「地域おこし協力隊」については、国の総務省の管轄の中で平成 21 年から、この事業が導入されたということで、全国各地で今、お話のように活用されている自治体がある。そしてもう一つは、農林水産省が行っている「田舎で働き隊」という制度があるようです。これは、いわゆる「田園回帰」、つまり農村地帯へ鮭の回帰じゃないですけども、戻って、帰ろうと、こういうようなことで、移住環境の整備ということで、その中で農山漁村活性化で、その中間の取りまとめ案が出たというのが、12 月 8 日にそのことが発表になったんですね。そういう情報がありまして、ここに農林水産省の有識者による「活力ある農山漁村づくり検討会」というのがあられるらしいんですが、その中間取りまとめ案が明らかになったと。で、これについて、都市住民が農山魚村に移り住む、いわゆる田園回帰という、さっき申し上げたんですが、その動きが活発化していると指摘して、農水省が実施している「田舎で働き隊」と、今言われる総務省の「地域おこし協力隊」の二つの農村派遣制度を、早期に統合拡充するなどして、移住環境を整備すること。というふうに、この中間まとめ案で、つい先日の 8 日の日に発表されているわけですね。

ですから、私、決して今、この「地域おこし協力隊」というものを導入しないとかという前に、そういう国の動きが、今ちょっと出てきているというようなこともありますので、その辺をやっぱり、しっかりと見極めながら、この町にとって、本当にふさわしい制度として、取り入れられる部分については、積極的に今後も取り入れていくと、こういう方向で進みたいというふうに思います。湊議員さんの今のこの具体的な「地域おこし協力隊」のお話を頂戴したわけですが、ご提案として、大変嬉しく思います。ありがとうございます。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

◆11 番（湊 喜一） この通告をいたしましてから、政府の方針が多少拡充という形になっていくという部分はあると思います。この選挙の結果を受けて、また更に、この地方創生という動きが進んでいくと思われまます。この形を変えて、拡充されたような形で、より使いやすいというような言葉を使ったら語弊があるかも分からないですけども、ありがたい政策ができるとなれば、ぜひとも手を挙げていただきたいと思ひます。

ただ、一番怖いのは、途中でやめてしまうような人たちがいる。1年目で挫折されてしまつて、非常に人材としてはもったいないと。その辺のところもあります。先ほど、今、町長が言われました、受け皿をしっかりと作るという部分は、非常に大事な部分だと思ひます。ですから、スピード感を持って、しかも慎重に、しっかりと考えた形でやっていただきたいというのは、非常に望むところでもあります。この信濃町でそういう受け皿を作れるような場所というのかな、例えば、信濃町には非常に森が多い、木が多い。林業なんかも、非常に、これから拡充していかなければならない事業だと思ひますし、カーボンオフセットという、エコに通ずるCO2削減の事業、これからそういう形で起こってくると思ひます。ペレットストーブもそうでしょうし、CO2削減という観点から、そういう事業は、今後、進んでいくようにも思ひます。そういう事業もあります。そういうところで、雇用も生まれてくるようにも思ひます。

いろいろな方策が考えられるのですが、町として、今、そういう、受け皿になりような事業というのは、どのくらいあるか、ある程度掴んでおられると思ひますので、介護の部分もそうでしょうし、そういう農山村の部分もあるでしょうし、常にアンテナを高くする必要があつて思ひます。今言つても、即答できない、と言われるかも分からないですけど、常々、職員というのは、そういうところまでアンテナを高くして考えていただく必要があつて思ひますので、一旦お聞きしたいと思ひます。各課長に、お聞きしたいと思ひます。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 議員さんがおっしゃるように、情報にはアンテナを高く、今、課長も皆聞いておりますから、そういうことを更にまた、励んでいただけるだろうとい

うふうに思います。そして、今、正直なところ、この地域おこし協力隊について、どういう対象事業で、どういうあれがあるかということは、事前にまだ、そういうことを具体的に行動を起こしていないということが実態でございますので、その辺でご理解をいただきたいと思います。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

◆11 番（湊 喜一） やはり、突然振るとお答えいただけないんだ。でも、課長あたりはドキッとされたかも分からないです。しっかり、こう考えて、常にこう町の中を見ていると「あっ、これは人手が足りない、ひょっとしたら、ここに雇用が創設できるんじゃないかな」と。いっぱい、そういう発想の転換もありますけれども、そういう目線で、常に町の中を見ていく必要があると思います。教育の場も多分そういう部分があると思いますので、是非とも常に、こう「何かないか、何かないか」という、何かコマースみたいですけども、「何かないかな」という、常に、そういうアンテナを高くいろいろな情報も捉えつつ、町にそういう題材が転がっていないか、町の中にお宝がないか、そういう部分はしっかり、目を皿のようにして、受け皿を作っていただく必要があると思うので、是非ともお願いしたいと思いますが、心意気を、一応お聞きしたいので、如何でしょう、各課長。

●議長（小林幸雄） 北村村総務課長。

■総務課長（北村政光） 急に振られまして、また、放送されていますので非常に心苦しいんですけども、例えば、先ほどの振興局などもよろしいのかと思いますし、私どもでいえば、デマンド交通なども、ちょっと、該当できれば、できるのかなというふうには思うんですけども。急ですので、その程度でお許しいただきたいと思いません。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

◆11 番（湊 喜一） 今のお答えで結構かと思えます。確かに、デマンド交通、この「地域おこし協力隊」は、地域の支援という項目もありますので、その辺は十分に該当すると思えます。

今、信濃町が困っているところで、これが少し若い人、20 代、30 代、40 代の人たちの応援が得られるものならば、募集するという方法があると思いますので、是非ともそういう方策をしっかりと考えていただきたいと思えます。これは信濃町全ての職員に、そういうことをお願いいたしまして、私の一般質問終わりたいと思えます。

●議長（小林幸雄） 関連質問のある方。9 番・森山議員。

◆9 番 (森山木の実) 9 番、森山木の実です。関連質問いたします。

今、その「地域おこし協力隊」とか、その他若い方が信濃町に来て、いろいろと活躍してくださることを、まだ、町長の中でもそれを取り入れるかどうかというのは、はっきりはしていないと思いますが、先ほどおっしゃっていた、こちらの受け皿、受け入れ態勢をちゃんとしないといけないだろうというのは、私も賛成です。

まだ分からないながらも、その受け入れ態勢の中に、単身者が住めるような住宅というのを、もうちょっと、ちゃんと整備しないといけないと思うんですね。今、設計中という駅の西側ですか、それは 8 戸ですね。だけど、8 人以上来てくださるなら、それはもうちょっと、造らなければいけないと思うんですが、なぜその単身者住宅と言うかという、12 月号の広報の特集に出ていた人たちの意見なんですけれども、仕事をしに来たい、信濃町のここで働きたいという人はいるんだけど、単身で住める場所を探したけれども、無い。で、大きな家ならあった、でも単身でその大きな一軒家に住むということは、都会から来た若い人というのは、慣れていないし、まず、雪下ろしというものが、もう想像もつかないんだそうです。だからやっぱり、もうちょっと暮らしやすい単身者住宅があれば、その人たちも来てもらえたのにな、という、そういう意見を聞きました。ですから、その「地域おこし協力隊」を取り入れるかどうかは別としまして、これから先、若者住宅を造る時に、若者が、都会からの若者が暮らしやすい住宅を考えていただければなと思うんですけれども、そこは町長、如何でしょう。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 住宅を造るというのは、いろいろな目的があろうかと思うんですね。私はやっぱり、集合住宅というの、今、雇用促進住宅ということで経過してきておりますが、いよいよ造り始めるという段階になっています。で、それはそれで大事なことだろうと思うんですね。今、森山議員さんがおっしゃるように、私はむしろ、これから農地と、遊休農地と兼ねあわせた時に、やっぱりその集合住宅では、そういう皆さん方は無理、無理ということじゃないんですけれども、使いづらだろうと。やっぱり、そうなると、一戸建なり、今言われるような、住み易いかはともかくとしても、その住宅環境の提供というのは、必要になってくるんだらうと思うんですね。その段階で、これは選挙中も、私もその一つとして訴えさせていた部分で、空き家住宅というの、なかなか今、あれを見ると実際に貸してもらっているところの物件がないという状況もあるんですが、そこも含めて、空き家の提供ということも、家主さんに何とか一つご協力をいただいて、そういった部分も確保していき、努力をしながら、移り住んでいただけるような環境整備というのは必要になってくると思うんです。

今後の中で、今、議員さんがおっしゃるように、それぞれの地域の中で、その個別住宅といいますか、一戸住宅的なものが造れるかどうか。これからは、そういったことも含めて、検討していく必要があるだろうと。ただ、雪が嫌だからとか、雪を片付

けるのが大変だから、それは便利にこしたことはないんですが、やっぱり、ここ信濃町は、ある一定条件、雪がある土地でございますので、雪も友達として、仲間に入れていただいて一緒に住んでいただくと。こういう認識を持っていただいて、住んでいただくのが一番いいのかなというふうに思います。以上です。

●議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆9番 (森山木の実) 外から来た身としましては、3年くらい経つと慣れるんですけども、1年目はちょっとめげますよね。やはり、1人で来た人たち、もしかしてご家族で来てくれるかもしれないけれども、若くて1人で来た人たちが「おお、これは」と思ってしまうこともあるだろうし、今の県住のような、ああいう感じの住み方というの、なかなか良さそうなんです。何もここに集合住宅をいっぱい建てろということではなくて、だだっ広くなく適度な大きさを、1人でも暮らしやすい住宅を、今後は考えていったら良いのではないかと思って、提案させていただきました。そんなので、如何でしょう。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 「そんなので如何でしょうか」と言われてもあれなんです、私自身、基本的には先ほど申し上げたとおりでございます。ですから、今後の中で、いろいろと諸条件を加味しながら、今言われた、議員さんご指摘のようなものも含めて、これからどう検討していくか、ということだと思いますので、決して、別に私はそのことを否定しているわけではございませんので、ご理解をいただきたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆9番 (森山木の実) 町長の公約にもある若者会議で、例えば、よそから来た若い方たち、それからここに住んでいる若い方たちの意見もちゃんと聞いていただいて、それで、住環境を整えていくということで、よろしくお願ひしたいと思います。以上で、関連質問を終わります。

●議長 (小林幸雄) 以上で、湊喜一議員の一般質問を終わります。

これですべての一般質問を終わります。

本日の日程は、全て終了いたしました。

お諮りいたします。委員会審査のため、明日12月11日から12月17日までの7日間を休会としたいと思ひます。これにご異議ございせんか。(なしの声あり)

ご異議なしと認めます。

よって、明日12月11日から12月17日までの7日間を、休会とすることに決定いたしました。

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議 会議録 (3 日目)

なお、12 月 18 日は午前 10 時から本会議を開会し、その後、午後 1 時半から議員控室において、議会全員協議会を開催いたしますので、全議員の出席をお願いいたします。また、最終日 12 月 19 日の本会議は、午後 1 時半からの開会といたします。

本日はこれで散会といたします。ご苦勞様でした。

(午後 3 時 05 分)